談話室

東京に作る農業経営大学校

某氏が勤務先へ訪ねて来られ,「東京に農業者の高等教育機関を作る。ついては校長になってほしい」とご依頼を受けたのは，ちょうど１年前の11月だった。青天の霹靂とはこのこと。あと２か月で75歳，後期高齢者の仲間入りをしようという時である。とかく安請け合いするクセのある私も，今度ばかりは考え込んだ。２週間もお待たせしてしまったが，1959年以来，新聞社，大学，研究所の勤務を通じ，ほとんど農業問題ひと筋に歩いてきた者として，人生の最終局面で何かしら世の中のお役に立てればと，力不足を承知でお引き受けすることにした。それが来年４月に開校する日本農業経営大学校である。

私たちの大学校は次代の日本農業を背負って立つ人材を育てるため，年に20人の学生を受け入れ，２年間，全寮制で教育する。校長という立場になって初めて知ったことだが,「大学校」という名称は誰が名乗ってもいいのだという。防衛大学校，水産大学校など一部には特定の法律によるものもあるが，むろん本校はそうではない。性格からすれば松下政経塾などと同じ私塾である。近ごろは政治塾がはやりだが，私たちは政治家の育成には全く関心がない。あくまで卒業後の就農を前提にしての塾である。

４月に初めて本校のことが記事になった時，一部の新聞が「企業が作る」というような書き方をしたが，そうではない。本校の運営母体である一般社団法人アグリフューチャージャパン(略称AFJ)は，JAグループ，一般社団法人日本農業法人協会などの農業団体と，200社余りの企業などが会員になって２月に発足した。産業界と農業界は時に意見が分かれることもあるが，次代の農業の担い手を育てるという点では一致し，オールジャパンの組織ができたのである。AFJは農業支援のため，大学校の運営以外にも，農業経営セミナーやｅラーニングなど各種の事業を行う。

校長をお引き受けした時，東京に作ることのメリット，デメリットを考えた。デメリットはすぐに思い浮かぶ。大都会のことだから周辺に農場を持つことは不

農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

可能であり，実習にはどこかの農場へ出かけるほかない。学生は２年間，自宅を離れて寮に入るから，授業料以外にも相当な費用がかかる。学生が農家の後継者だとすると，２年間は家の農業を手伝うことができなくなり，その分もまた家族の負担になりかねない……。

それでもなお，東京に出て来て学ぶメリットは何か。これもいろいろあるが，詰まるところ，東京には人と情報がいちばん集まりやすいということではなかろうか。国土の均衡ある発展という立場からは好ましくない一極集中の現実が，東京としては最大の有利性になる。東京だからこそ，誰もが学びたくなる講師を日本中から集めることができるに違いない。

結果にはいささか自信がある。具体的な顔ぶれは本校のホームページhttp://jaiam.afj.or.jp/ の学校案内をダウンロードしてご覧いただきたいが，各地の大学・研究機関からえり抜きの講師たちを招くことが決まった。いま私は「東大の学生は東大の先生からしか学べない。でも日本農業経営大学校では全国の大学の先生たちと顔見知りになれる」とPRしている。

本校では通常の授業のほかに，「特別講義」という時間を設けた。学者・研究者だけでなく，全国の農業者，企業人，消費者などに，タイミングを見計らって次々と登場していただく。自薦・他薦も大歓迎。私たちの手元には，特別講義の講師として招きたい方々の大きなリストができており，しかも日ごとに追加されている。あなたにもある日突然，講師の依頼状が舞い込むかも知れない。

本校のキーワードは「多様性」だと私は思っている。講師の多様さについては既に触れたが，学生も19歳から40歳まで幅広く受け入れる。出身や経歴は問わない。１，２年次それぞれ３～４か月かけて行う現地実習では，農場以外に企業の第一線にも出かける。生まれも育ちも多様な学生たちが同じ釜のメシを食い，さまざまな経営像を描いて２年後に全国へ散っていく。彼らが自分の経営を確立するとともに，地域のリーダーとしても根付いた時を想像するのは，私にとって若返りの妙薬である。

（日本農業経営大学校 校長　岸　康彦・きし　やすひこ**）**

農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/